事業所通信No.158

特定非営利活動法人はちくりうす
東京都目黒区鷹番3-14-9
Tel：03-3793-3012
Fax：03-5856-6700
E-mail：office@8curious.or.jp
https://www.facebook.com/8curious
編集担当：島田　宏

関西３事業所訪問研修に行ってきました！

～サラダボールのような世の中に！～

今回は、真野さんからの報告です。

今回3つの施設を訪問して共通して感じたこと。それは「居場所」について、だった。改めて考えるとなかなか難しい。辞書によると「その人が心を休めたり、活躍したりできる環境」らしい。私個人としては、「ほっとひと息つける場所」「安心できる場所」ではないかと思う。

１日目に訪れた社会福祉法人ぽぽんがぽんで施設長の話の中に地域での風習だと思うが、事故で亡くなった利用者の方の茶碗を割るのを見かけて「死んでもなお、この場所にいることを許されないのかと思った」そうだ。

２日目の最初の訪問先のNPO法人夢宙センターで聞いたSさんの自立生活の話。 ショートステイも取り入れ、去年の夏頃から月１週間のショートステイを月５日にして支援しているそうだ。自由な時間が増え、また自分のペースで生活できるため、長いと４～５時間も入浴しているそう…！関連法人のすぺーすしゃとるでは、月１回の見守り活動や年３～４回の縁日を行うことで、地域交流を活発に行っている。地域の中で「居場所」を作っていくことに熱心なように感じた。

２日目午後の訪問先は西成区にあるNPO法人こどもの里に訪問した。ここは様々な事情で親と暮らせない、暮らしたくない子どもの支援を行っている法人。また学童のように、むしろ学童以上に幅広い年齢や背景のある子どもたちに遊べる場所を提供している。障害のある子や国籍のない子も来るそうだ。

こどもの里の面白い活動の1つとして、毎年冬に行っている「こども夜まわり」がある。これは、「こどもたちが実際におっちゃんたちと出会って、話をして、本当のことを知り、考えることが大切ではないか。そんな思いから『こども夜まわり』は始まった」そうだ（「2017年度こどもの里事業報告書」より）。

２０１７年のテーマは「これからの釜ヶ崎～こどもにやさしい、排除のない多様な豊かなまち」。これは障害福祉に通じるところではないかと思う。障害者はトラブルを起こしやすい？いやいや、そんなことはない。お互いに「出会って、話をして、本当のことを知り、考える」。そうすることにより、お互いに歩み寄ることができるのではないだろうか。他人の情報だけに惑わされず、自分の目で見て耳で聞き、実際に体感すること。そのことが大事なんじゃないかと思う。

私事だが、アメリカに留学していた。留学前に教えてもらった考え方を今でも覚えている。それは「メルティングポットとサラダボウル」。

これは文化の考え方だ。メルティングポットは様々な文化が混ざり合い、結果1つの独特な文化を作り上げる考えのこと。逆にサラダボウルは混ざり合うことなく、お互いに共存し合う考えのこと。

いろいろな価値観、背景、人種、宗教、言葉の違い、そして障害のあるなし。どんな人でも住みたい街に住むことができ、「安心できる」「居場所」があるということ。そのためには、やはりお互いに「出会って、話をして、本当のことを知り、考える」ことが大事であると思う。私個人としては、サラダボウルな世の中になってほしいと心から思う。

（真野）

「自立のカタチ」～当事者・家族・社会の三方良し～

身体・知的・発達の障害や難病を患う当事者や、その家族にとっての自立とは、当事者やその家族、あるいは特定の支援者で完結するものなのでしょうか？
福祉業界の風雲児・藤田英明さんを迎え、はちくりうすの櫻原もトークに参加します。

■第一部「当事者・家族からみた自立とは」
■第二部「支援者・地域社会から見た自立とは」
日時／１１月１０日（日）開場／１８：３０
場所／目黒区中小企業センター
参加費／一般前払い1000円・当日1500円、当事者前払い500円、当日700円

タピオカドリンク大好評でした！　～八雲ワイワイまつり～

はじめて八雲住区センターの「八雲ワイワイまつり」参加しました。今回はヘルパーさんや学生さんもボランティアできていただいたり、職員の子供たちがお手伝いしてくれたりと大勢の方にお手伝いしていただきました。またはちくりうすの利用者さんにもお手伝いしてもらっています。

タピオカドリンク販売は初体験だったのですが、開始早々に行列ができたりして、用意していたタピオカが足りなくなり、あわてて事務所に取りに帰ったり、コンビニに氷やミルクティーを買いにいったりと大変な場面もありました。ちょっとタピオカブームを甘く見ていたようです。

イベントでの販売はほぼ初めての試みで、準備に色々と経験しながらの取り組みでしたが、心配していた天気も良く、来場者の方にも喜んでいただけたと思います。

←９月一杯まで、八雲住区のエントランスに、はちくりうすのガイドヘルプの写真パネルも展示してあります。足を延ばしてご覧になってください。

次回のタピオカドリンク販売は29日の鷹番小学校で行う「わくわく子どもまつり」です。ただいまボランティア絶賛募集中です！

ガイドヘルパーキャンペーン

参加出来ない場合は、ご連絡をお願いいたします。
今回は、ヒヤリハットです。是非ご参加ください。

１０月１７日（木）
鷹番住区センター第3・４会議室
10時～12時　ヒヤリハット

１１月１４日（木）
鷹番住区センター第3・４会議室

納涼会を開催しました

職員とヘルパーの交流を兼ねた納涼会を学芸大学のお店で開催いたしました。
１対１のガイドが多く、顔を合わす事の少ないヘルパーさん同士の交流は皆さん楽しみにしているようです。
いろんな場面での相談などにも話が盛り上がりました。

★　★　★　★　★　★　★　★　★

近づいてきました～～～。11月１か月、西郷山公園のグリーンカフェの壁面をお借りして、「はちくりうす作品展」を開催します。
はちくりうすの利用者さんだけでなく、ヘルパーとして稼働していらっしゃる方の作品も募集しております。
「こんな物でもいいですか？」とかお問い合わせもお待ちしています。

**作品展やります
あなたの作品を
募集中です！**

編集後記

先日の月例会でハサミムシという昆虫の幼虫はお母さんを食べて冬を越し大きくなるそうです（「生き物の死にざま」稲垣栄洋著）、という話をしたらドン引きされました。でも生命を何世代にもわたってつないでいくためには、親にはこんな役割があることも、自然の摂理なのかもしれません。羽化してから数時間で死んでしまうカゲロウも、命をつなぐために必死でパートナーを探し交尾し死んでいきます。まるでそのためだけに生まれたかのように口は退化し食事も取らずただひたすら次に命をつなぐためだけに生きるのです。そして大量の骸を水辺に浮かべます。我身を捨て必死で命をつなぐ姿を思うと、胸が苦しくなる事件のことをを聞くたびに昆虫の世界のことを考えてしまいます。　島田